

平成 28 年度 終了評価書

研究機関 : 日本電気(株)、日本電信電話(株)、エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株)、富士通(株)、(株)日立製作所

研究開発課題 : ネットワーク仮想化技術の研究開発
(Ⅱ ネットワーク仮想化統合技術の研究開発)

研究開発期間 : 平成 25 年度 ～ 平成 27 年度

代表研究責任者 : 桐葉 佳明

■ 総合評価(5～1の5段階評価) : 評価4

■ 総合評価点 : 23点

(総論)

研究開発成果は目標を上回る成果となっているものの、狙った領域に市場が成立するかどうか予断を許さない状況であり、アウトカムの対応をもう少し検討すべきである。

SDN は国際的市場が見込まれる重要な技術であることから、今後とも、この成果を共有し、持続的に発展させていくよう努力されることを期待する。

(コメント)

- 設定目標はクリアしている。その視点からは、よい成果の出たプロジェクトである。問題は、この成果をどのように共有し、持続的に発展させていくかであり、そのための今後の努力を期待したい。
- 国際的市場がみこまれる重要な対象を扱っており、技術開発についてはしっかりやっているが、アウトカムの対応の検討がもう少し求められる。
- 個々の研究開発においては、目標を上回る成果があげられている。一方で、狙った領域へ市場が成立するかどうかは予断を許さない。

(1) 研究開発の目的・政策的位置付けおよび目標

(5～1の5段階評価) : 評価4

(総論)

国際的なビジネスに発展する可能性を持つ重要な研究テーマである。

これから市場が立ち上がるところであり、OSS 化という方向性を打ち出して、我が国の技術開発力強化を推進した点が評価できる。

(コメント)

- OSS 化という方向性を打ち出して、我が国の当該技術開発力強化を推進した点が評価できる。
- IoT、5G、NTT 東西のビジネスモデルの変化等を考えると、重要な技術であることに変わりはない。
- 重要なテーマを扱っており、国際的なビジネスに発展する可能性を持つ研究である。
- 市場としてはまだまだ立ち上がっておらず、チームとしての強力なプッシュが必要で見守っていく必要がある。

(2) 研究開発マネジメント(費用対効果分析を含む)

(5～1の5段階評価) : 評価4

(総論)

目標は確実に達成しているが、よりインパクトのある成果があるとよかった。

多くの関与者がある中で、目標達成に向けて全体として整合性のあるアプローチをし、効果的に研究を進めた。

(コメント)

- 目標を確実に達成しているが、全体規模が大きいので、ややメリハリに欠けた形となった。きわだって成果をあげたというインパクトがあればよかった。
- 多くの関与者がある中で、全体として整合性のあるアプローチをしたように見える。
- 比較的効果的に研究を進めていると思う。
- 多くの目標を超える成果があげられている。

(3) 研究開発目標(アウトプット目標)の達成状況

(5～1の5段階評価) : 評価4

(総論)

目標あるいは目標以上を達成しており、成果の一部には世界トップレベルの性能を持つものもある。

(コメント)

- 設定した数値目標はきちんと達成した点が評価できる。
- 数値目標を達成あるいは目標以上となっている。一部は世界トップレベルであるが、必ずしも全てがトップレベルではない。
- 多くの技術課題を解決しており、Lagopusのように世界トップの性能を持つものもある。
- いくつかの目標を上回る成果が出ている。

(4) 政策目標(アウトカム目標)の達成に向けた取組みの実施状況

(5～1の5段階評価) : 評価4

(総論)

研究開発成果の標準化、OSS化に積極的に取り組んでおり、成果の実用化も期待できるが、シェア獲得に向けた対応が十分には見えない点がある。

(コメント)

- 標準化、OSS化に限られたリソースにもかかわらず積極的に取り組んでいる。
- 各社の製品化もロードマップに組み込まれ成果の実用化が期待できる。
- 報道発表、標準化提案数等積極的であるが、論文等はまだ少しあってもよい。
- 色々ががんばっているが、シェア獲得に向けて効果的に対応が十分行われているようには見えない点がある。
- Lagopus、ODENOS等のOSSの推進とONFへの標準化がおこなわれている。

(5) 政策目標(アウトカム目標)の達成に向けた計画

(5～1の5段階評価) : 評価3

(総論)

各社とも商用化に向けた計画をもっているが、まだ希望レベルのものも多い。

OSS により市場にのり出していくための具体的なアプローチ、重点領域を明確にした戦略等が十分とは言えず、市場として立ち上げるためには、ユーザーを巻き込んだ更なる作り込みが必要。

(コメント)

- OSS により市場にのり出していくための具体的なアプローチがやや不明確のように見えた。
- これから2～3年間の活動をもう少し詳しく把握してほしい。
- 各社とも商用化に向けて計画をもっているが、まだ希望レベルのものも多い。
- 重点領域を明確にした勝ちの戦略が十分とは言えない。
- 市場として立ち上げるためには、ユーザーを巻き込んだ更なる作り込みが必要。